

みんなちがって あたりまえ でも 子育てに 不安を 感じる すべての方へ
 子育て おうえん ちょっと 休憩しませんか？



「ミルクティー」

長崎市立村松小学校長 三根 裕一郎
 特支 Co 下田 誉子

まずは、あまーいミルクティーを1杯どうぞ。

「ミルクティー」が、村松小学校のHPに載っているのは、ご存知でしょうか。昨年度のものもありますので、よろしければ、ご覧になってみてください。

暦の上では、秋ですが、まだまだ日中の暑さが続く日々、戸根のヒガンバナが咲き始めました。夏の個人面談では、お子様の発達や、学習についての相談が寄せられたようでした。私も、個人面談に同席させていただく回数が、今年度は少し多かったように感じられました。それだけ、お子様の発達について、関心を持っていただけるようになったことを、うれしく感じたいです。

低学年の時には、このくらい落ち着きのなさがあっても、まだ大丈夫かな？と置いていたけれど、中学年になってもまだ続くので心配になってきましたというご相談が数件ありました。

いつ、どの時点で、「このままで大丈夫かしら。」と思うのか、相談したらいいのか、タイミングが難しいですね。担任としても、いつ保護者に相談すべきか、悩める所ようです。それは、保護者に不要な心配をかけたくないという思いもあります。子供たちは、学校での友だち関係、学習の理解度、家庭環境など、様々な要素に影響を受けると言われています。心配になっているくらいであれば、まずは担任やスクールカウンセラーに気軽に相談してみることが一番かと思います。

さて、自分の子供の心配はしてあたりまえですが、よそのお子様の心配までしてしまっていることはないでしょうか。もしくは、クラスの友だちのことで、発達に障害があるのではと思うことはないでしょうか？通級では、心では思っても、口に出してはいけないことを教えています。子供たちは、思ったことを口に出してしまってトラブルになることがあるからです。大人であれば、心で止めていられることを、つい口に出すことがあります。しかし、それも子供たちにとってはだめだと教えてもらい、学び育っている段階です。



さて、大人である皆様は、よそのお子様について、「あの子は、障害があると思う。」「発達に障害があるのではないの？」といったことを口に出していませんか。「〇〇さんは障害があるって、家の人が言った。」と、子どもたちは、そのまま学校で口に出していることがあります。くれぐれも、よそのお子様について、このような発言はしないよう、みんなで心がけていきたいものです。

ミルクティーの味は、いかがだったでしょうか。では、次は10月号で。

